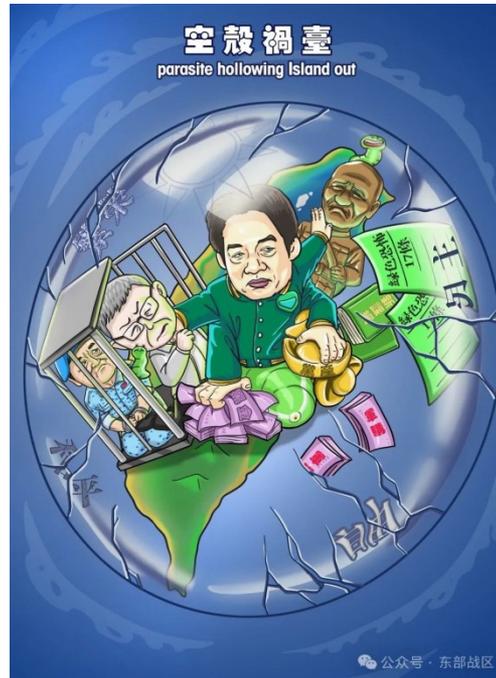
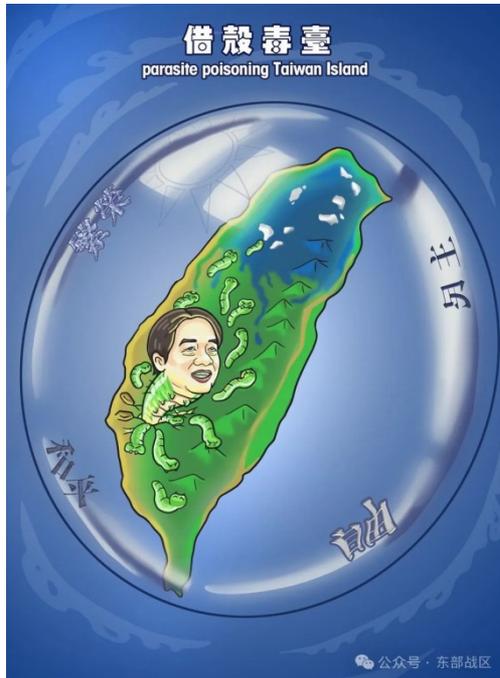


海峡雷霆-2025A



(出典：東部戦区演習アニメ「殻」 20250401)

2025.4.25

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

※ 本書の無断転載、複写、複製を禁じます。
衛星画像は著作権の関係上Maxar社の画像使用は別途申請が必要、またMGProの画像は申請不可・転載禁止です。

目 次

- 1 演習の概要
- 2 演習の注目点
- 3 演習の戦略的企図
- 4 日本への影響

中国軍の訓練サイクルと演習の位置づけ (2024~25年)

□ : 中国公表の演習

□ : 台湾が公表した中国の演習

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
行事	訓練開始式	春節	全人代		労働節			建軍節		国慶節		年末検閲
訓練	各個訓練 → 昨年度の評価	→ 部隊訓練大隊級 → 指示に基づく訓練始動		→ 旅団級		→ 戦区级		→ 中央軍委級 → 訓練最盛期		→ 補備訓練		→ 年末検閲 → 成果確認
演習	24年				頼總統就任式 ↓ 聯合利劍A				→ 統合着上陸演習 → ミサイル総合演習	双十節 ↓ 聯合利劍B		頼總統初外遊 ↓ 統合演習
		25年		→ 統合演習	→ 海峡雷霆							

“冠”演習（命名された演習）は国内外への政治的メッセージ発信が主目的も、報道される内容は中国軍の訓練の重視事項や装備戦力化の程度等を反映

演習の概要

4/1 統合演習（東部戦区報道官4/1）

- 東部戦区は陸・海・空・**ウツ軍**等により**台湾周辺で統合演習**を開始
 - ◇ 艦艇・軍用機を多方向から台湾に指向し、海空戦備警戒パトロール・総合支配権の奪取・対艦・対地打撃・要域及びシーレーン封鎖等を主に演練

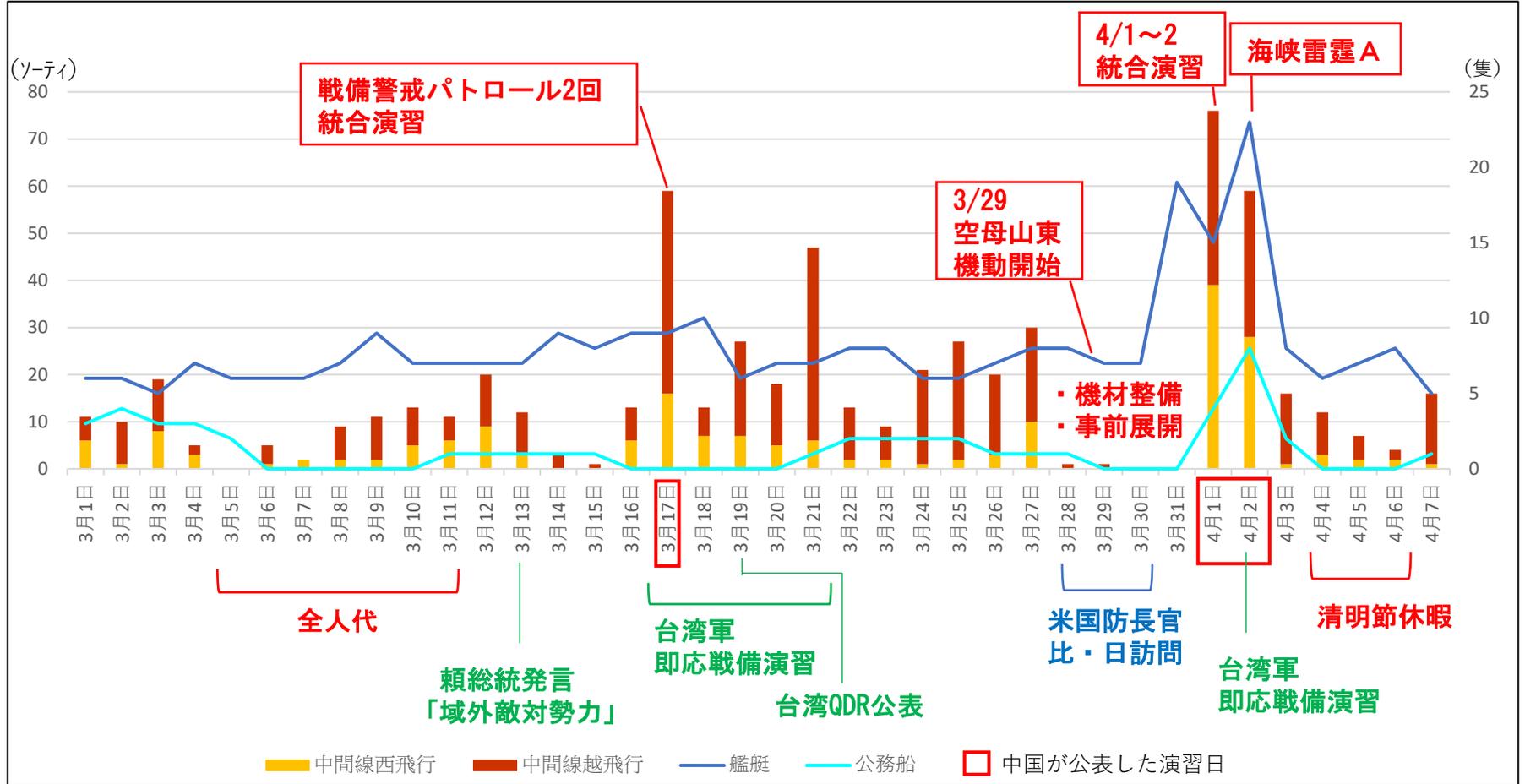
4/2 海峡雷霆・統合演習（東部戦区報道官4/2）

- 海峡雷霆-2025A
 - ◇ 東部戦区は**台湾海峡の中部・南部**で「**海峡雷霆-2025A**」演習を実施
 - ◇ 戦区**陸軍**が東シナ海の関連海域で、重要港湾・エネルギー施設等を模擬した目標へ**長距離火力実弾射撃**を演練
 - ◇ 敵味方識別・警告駆逐・阻止押収等を主に演練し、部隊の地域管理・統合封鎖・精密打撃能力を検証
- 統合演習
 - ◇ 東部戦区が組織した**山東空母編隊**は、**台湾東沖**で地域制空・対艦対地打撃等を演練

○ 2025年訓練年度初の「冠」統合演習。国防部が今年の訓練最重視事項を「**訓練による抑止力**」と表明しており、年度早期の4月からこれを実践

○ **海上封鎖の統合演習**は命名しておらず、今後は命名なく**常続的に実施**する可能性

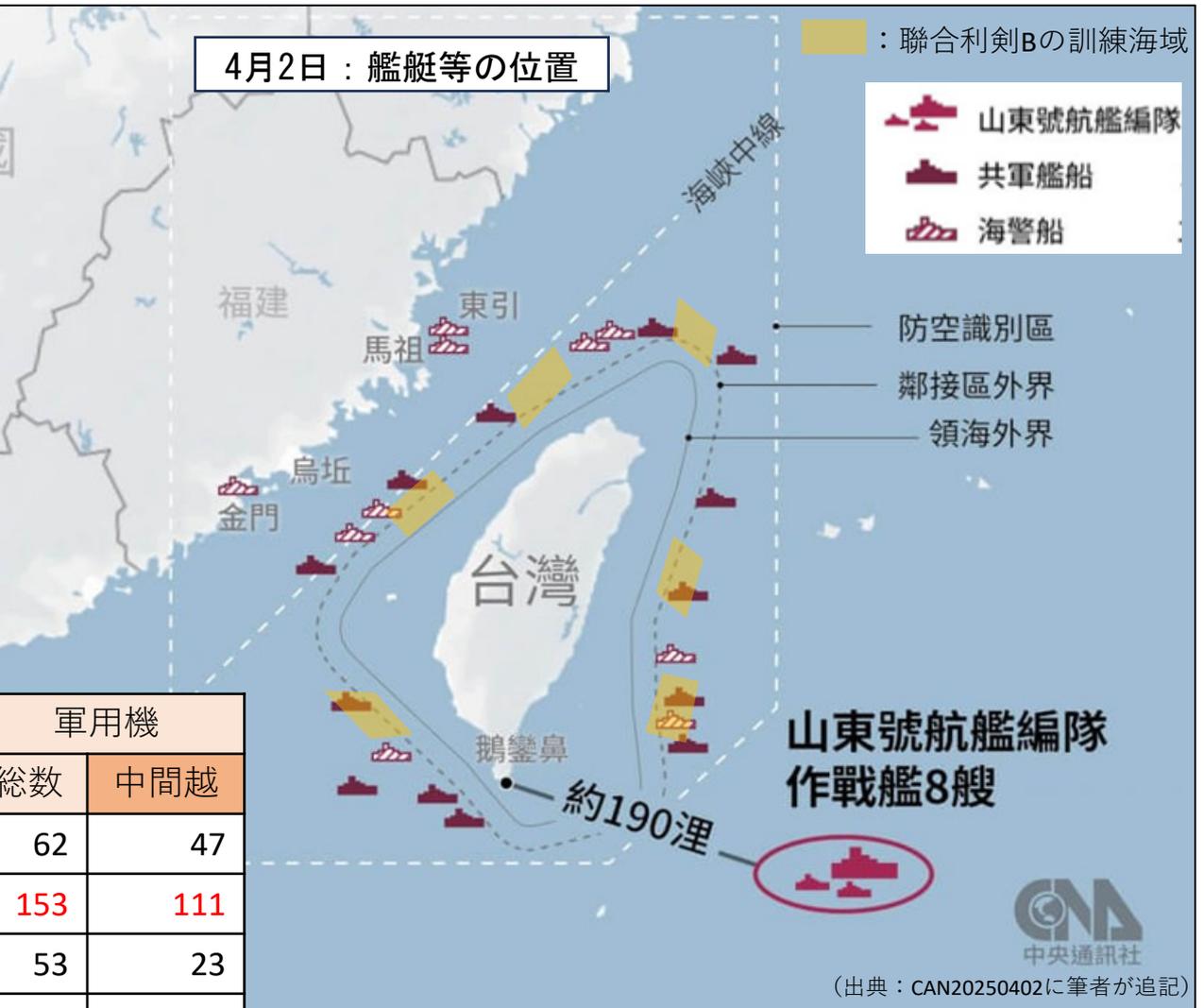
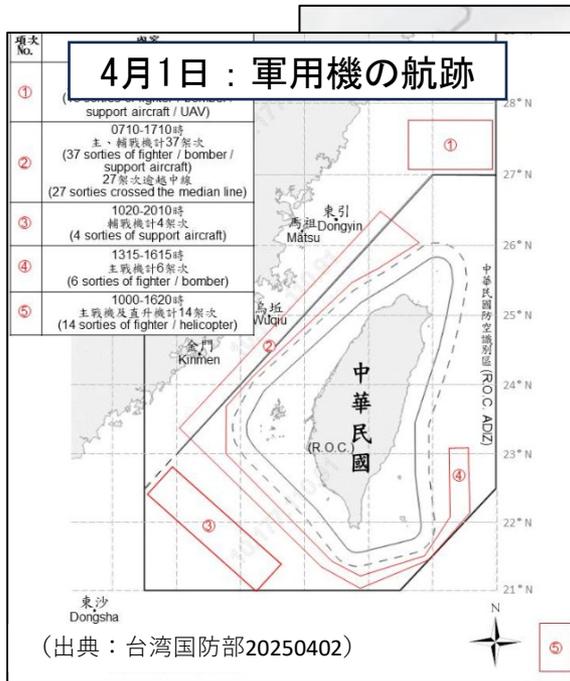
演習前後の台湾周辺における中国海空軍等の動向



(資料源：台湾国防省HPから筆者が作成)

- 頼總統発言及び台湾軍の演習に対し、中国国内と台湾に強硬姿勢誇示の必要
- 台湾が実侵攻との誤判断し実戦に至るのを回避するため、演習開始の兆候は秘匿せず

艦艇・軍用機等の状況



動向比較		海軍艦艇	公務船	軍用機	
				総数	中間越
24年	聯合利劍A	27	7	62	47
	聯合利劍B	14	12	153	111
	12月演習	16	9	53	23
25年	4/1	15	4	76	37
	4/2	23	8	59	31

(資料源：台湾国防省HP)

○ 訓練時期が早く、参加アセットは小規模
 ○ 艦艇の重要港湾を制する配置に変化ないものの接続水域への進入は公表されず

統合演習の状況

空軍



海軍



ロケット軍（駐屯地からの出動）



ロケット軍（DF-15B発射陣地への展開）



（出典：全て東部戦区SNS20250401）

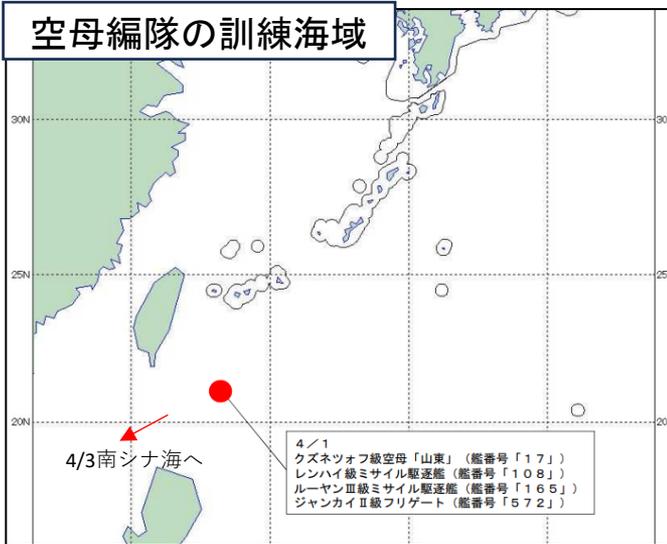
- 陸海空ロケット軍参加の統合演習
- 陸軍以外の実弾射撃は未確認で、台湾本島への**接近度合いは高めず**

注目点①：空母編隊の海上封鎖任務への参加

空母の動向（東部戦区報道官 4/2）

- **東部戦区**が山東編隊を組織
- 内線外線の一体化・**立体封鎖**・諸軍兵種統合作戦能力を重点に検証
(**聯合利剣B**の重点検証：内線外線の一体化、諸軍兵種統合作戦能力)

空母編隊の訓練海域



4/1～2、台湾東沖で発着艦、艦載機
40回・ヘリ30回の計**70**回
(**聯合利剣B**の空母遼寧は10/14～15で艦載機
90回・ヘリ50回の計**140**回)
(出典：防衛省20250401に筆者が追記)

空母編隊



- **山東**の母港は**南部戦区**
- **随伴艦**は全て**南部戦区海軍**隷下

空母山東の参謀



これまでの演習と比し、
今回の作戦指揮は刺激的、**戦争への没入感**が
非常に強かった

(出典：上下共軍事報道202504012)

- 内線外線とは中国沿岸・台湾海峡・台湾東沖の第1列島線等を指すと考えられ、それぞれの位置に**展開する部隊と空母が連携**して演練した可能性
- 空母単体の訓練規模は小だが、空母編隊が**東部戦区指揮下**で「**海上封鎖**」任務を与えられ、その要領を**具体化**、演練した可能性

注目点②：多連装ロケット砲の1万攻撃

多連装ロケット砲が展開・実射

展開中のPHL191多連装ロケット砲（射程：70～480km）

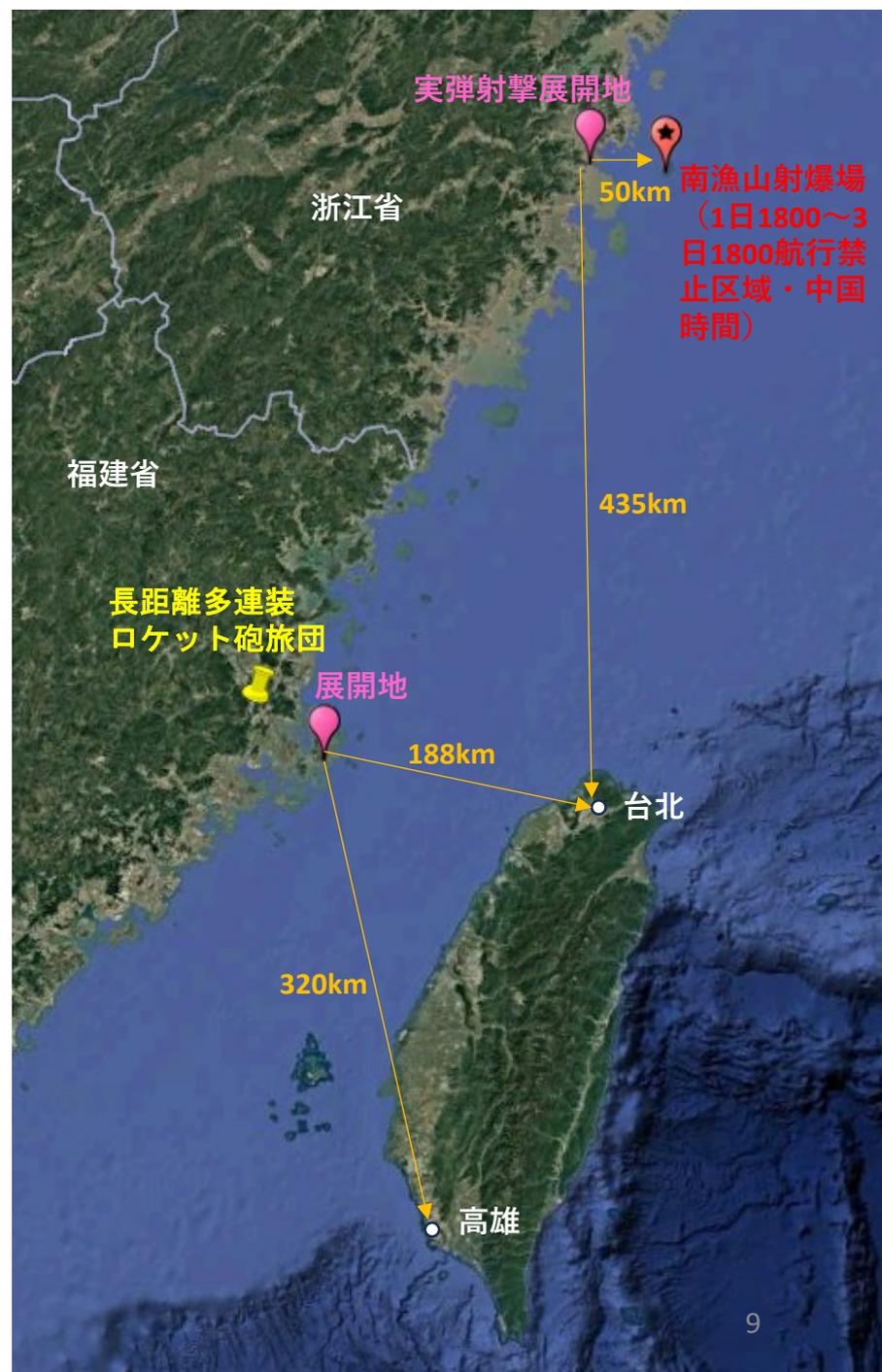


(出典：weibo東部戦区20250402)

南漁山への実射（4/2）



(出典：央視新聞20250402)



中国報道の南漁山での実射状況 4/2



(出典：軍事報道20250402)

永安LNG陸揚基地



台湾のLNG陸揚基地 (稼働中2か所)



台湾のエネルギー事情 (資料源：聯合報20250403)

- 発電の4割以上がLNGに依存
- 貯蔵量
 - ◇ LNG: 13日分 (夏季は7日分)
 - ◇ 石炭: 35~40日
 - ◇ 石油: 3~4カ月

台湾LNG基地を模擬した目標への実射初確認

- ⇒ ○ 海上封鎖で輸入を止め、エネルギー施設へ攻撃すると喧伝
- 生活の混乱を招くと台湾市民を威嚇

注目点③：超音速対艦弾道ミサイル

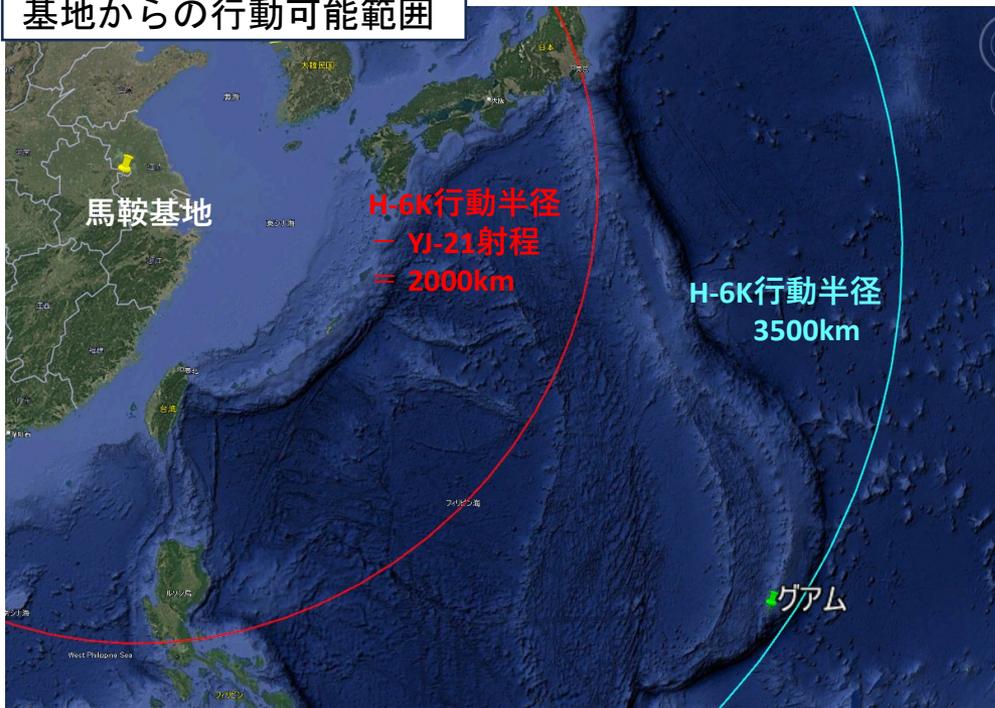
訓練中のH-6K爆撃機（第10爆撃機師団：馬鞍基地）



YJ-21（鷹擊-21）超音速対艦弾道ミサイル

- 2022年、珠海エアショーで公開
- 2024年5月、H-6Kからの発射映像公開
- 諸元（報道取り纏め）
 - ・ 平均速度マッハ6以上、終末段階マッハ10
 - ・ 射程：1000～1500km

基地からの行動可能範囲



統合演習での超音速空対艦弾道
ミサイルの装着初確認

- ⇒ ◇ 爆撃機による米艦艇群の
接近阻止を演練
- ◇ 新装備の戦力化が進展

注目点④：海警によるシーレーン封鎖

4/1～2 法執行パトロール（海警局東海海区報道官4/1～2）

- 直属支隊が台湾本島、福建支隊が東引・烏丘周辺海域で法執行パトロールを実施
- 捜査・臨検拿捕・警告駆逐・**航路管制**・**阻止押収**等を演練し、台湾周辺海域及び重要港湾の管理統制能力を検証



（出典：中国海警局20250401）

台湾海峡は既に「内海化」したため、法執行パトロールと呼称しないとの意思表示

聯合利劍B



民間船舶の取締



（出典：央視新聞20250402）



「綠色栄養」
民進党のシンボルカラーは緑、漢字が簡体字（大陸で使用）であり、民進党勢力が中国人に偽装して日本等へ逃亡するのを阻止すると想定の可能性

- 演習対象を台湾の港湾のみならず、**シーレーン上での取締り**まで拡大
- **武器を保有していない民間人・船舶も小銃等の武力による取り締まりの対象**

注目点⑤：海上民兵等との連携

民間人による浸透（台湾海巡署 4/1）

4/1、中国の演習開始発表の約40分前、台湾海巡署は金門海岸でゴムボートと密入国を試みた中国人男性を発見・逮捕

⇒ 潜入に対する台湾の沿岸警備状況や対応を確認し、実戦時の準備の可能性も

海上民兵の動向（台湾海巡署 4/3）

4/1～2、海上民兵容疑船×3が花蓮港沖140カ所で中国海軍と演練

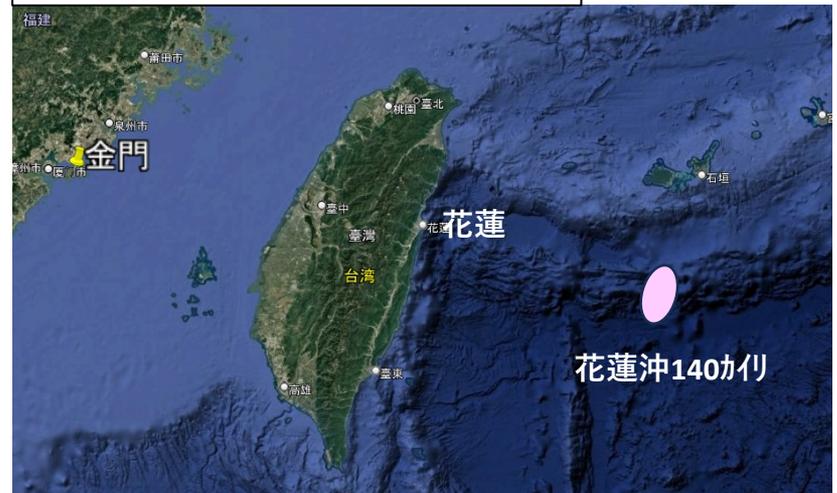
⇒ ◇ 海上封鎖の艦艇と海警船の間隙に民兵船を配置し監視等に運用した可能性

◇ 日本周辺では艦艇を避け民兵船を展開させ、グレーゾーン行動を訓練した可能性

金門海岸での密入国者の逮捕



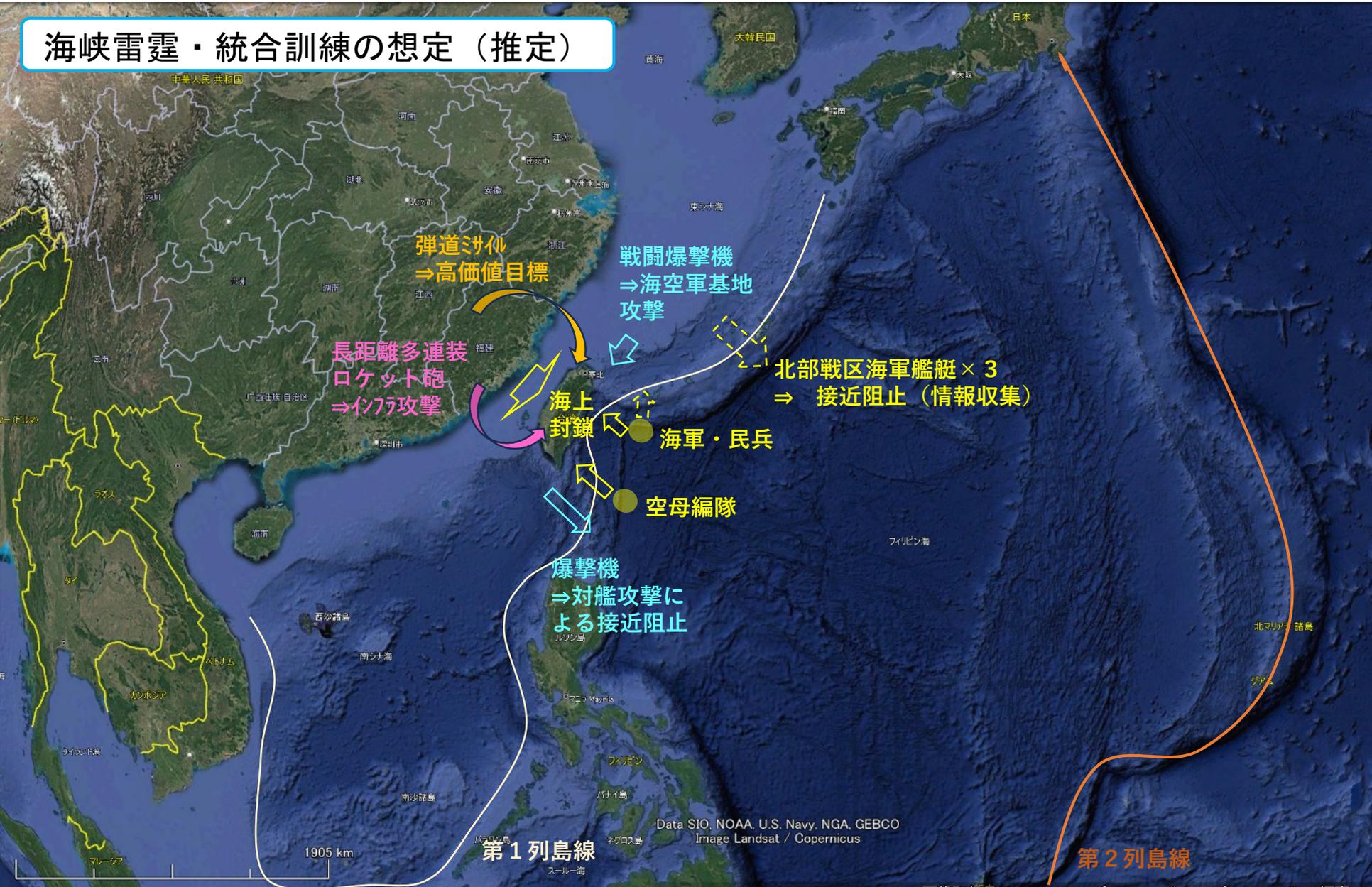
海上民兵容疑船展開の概略位置



○ 海上民兵が戦区レベルの統合演習に参加できるまで軍との連携が深化

○ グレーゾーン時には日本周辺海域にも海上民兵や潜入人員が活動する可能性

海峡雷霆・統合訓練の想定（推定）



- 海上封鎖と台湾本島内の基地・インフラ攻撃を併用し、**エネルギー遮断**を強要
- 北部戦区海軍も参加、**接近阻止任務**の他戦区部隊との連携も演練した可能性

2024年演習との比較

名称	聯合利剣2024A (5/23~24)	聯合利剣2024B (10/14)	海峡雷霆2025A・統合演習 (4/1~2)
区域	台湾本島及び離島の周辺海空域		
部隊	○ 東部戦区部隊 ○ 海警直属第2支隊・ 福建海警局	○ 東部戦区部隊 ○ 空母編隊 ○ 海警直属第1・2支 隊、福建海警局	○ 東部戦区部隊 ○ 空母編隊 ○ 海警直属第1・2支隊、福建海警局 ○ 海上民兵 (台湾発表)
重視 項目	海空戦備警戒パトロール		
	総合支配権の奪取		
	重要目標への模擬統合 精密打撃	海上陸上目標への打撃	重要港湾、 エネルギー施設 等の模擬目 標への精密打撃 (実射 含む)
	重要港湾・要域の封鎖	要域及び シーレーン 封鎖等 敵味方識別・警告駆逐・阻止押収等	

- 封鎖の対象が港湾からそこに至る**シーレーン**まで拡大
 - 封鎖に関する訓練項目が具体化。戦闘展開後の封鎖実施要領、更に海軍艦艇・海警・海上民兵を含む海上戦力と中国沿岸の陸上戦力の**連携等**まで訓練が進展した可能性
 - LNG基地を模擬した目標への実射。台湾**市民**を対象とした**認知戦**を展開
- ⇒ 着実に**海上封鎖訓練の範囲・練度を上昇**

台湾の対応

今次演習に対する台湾の対応

- 4/1：軍及び海巡署が対応センター立ち上げ
- 4/2：「即応戦備演習」を実施
 - ⇒ 3/21の即応戦備演習終了後の10日後に引き続き実施、整備期間が非常に短期

台湾QDRによる対中脅威認識（2025年3月19日公表）

- **グレーゾーン行動**を総合的に運用
 - ◇ 中国の戦備パトロール・演習等への台湾軍・海巡艦艇の出動により**装備損耗が加速し、戦時に利用可能な兵力が減少**
 - ◇ 平時からサイバー攻撃及び**認知戦**を実施し、戦時には大規模に拡大できる準備
- 作戦形態の変化
 - ◇ 台湾本島の重要港湾・シーレーンを**封鎖**、**戦略物資の輸送**と商業活動を阻害
 - ◇ 友好国による台湾支援を阻止するため**超音速兵器等の戦略兵器**の拡充を継続
 - ◇ 侵攻兆候を曖昧にし、「**演習から戦争への転換**」に対する台湾・国際社会の**判断と対応を遅滞**

- 今次演習は台湾の**国防建設努力は無駄**であるとの、**台湾QDRに対する中国の回答**
- 台湾は「演習から戦争への転換」に対する**対応の遅滞を避けるため**、戦時の兵力減少を懸念しつつも、**対応せざるを得ず**

演習における中国の戦略的企図

国防部報道官発言（20250402）

- 頼清徳政権は独立挑発行為を横行させ、兩岸の緊張と対立を激化させ、「外国依存の独立」、「武力による統一拒否」という道が無謀に突進
- 「台湾独立」分離主義勢力と頼清徳政権は台湾海峡の現状に対する最大の挑戦であり、まぎれもない危機・トラブル製造者である
- 頼清徳政権に警告：火遊びをすれば自ら焼死し、騒げば騒ぐほど滅亡は早い
⇒ 頼総統が「緑色テロ」を行っている個人攻撃を集中

米中海上軍事安全メカニズム

- 4/2～3、米中海上軍事安全協議メカニズム作業部会を上海で開催
- 「米中海空遭遇安全行動準則」の実施状況を評価し、海上軍事安全保障問題の改善のための措置を討議
⇒ ◇ トランプ政権2期目が発足してから初の会合
◇ 演習間に東部戦区内で開催、米との意思疎通継続は希望

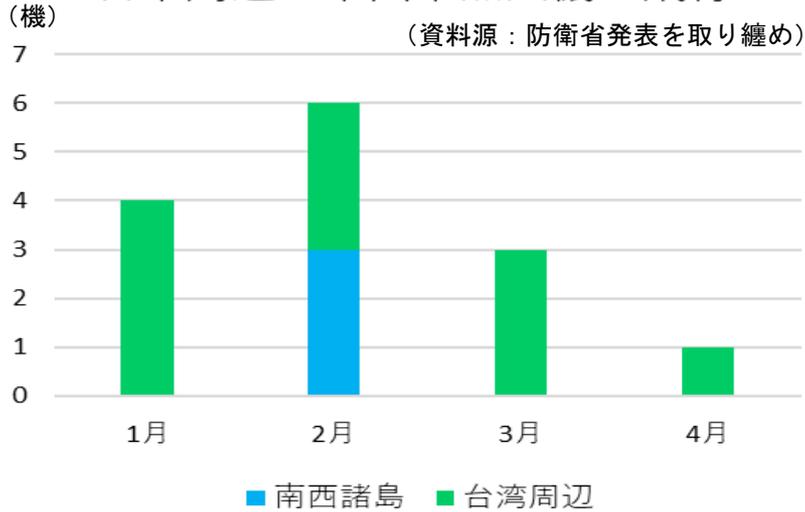
- 頼政権の独立志向に強い危機感を有し、グレーゾーンの常態化による台湾軍の戦力低下や台湾市民の民進党離反等を企図
- 一方で、現時点では侵攻準備未完と認識し、中国軍の活動活発化に伴う米との偶発的な衝突回避も追及

今次演習からみる日本への影響

- 訓練サイクル早期から統合訓練を実施しており、今後は中国の**グレーゾーン行動**がより**常態化**。これにより台湾軍の損耗を強要し、**侵攻兆候が曖昧化**
 - ⇒ ◇ 日本周辺で**常態化する中国軍アセット**、特に**無人機**への対応要領を検討
 - ◇ 活発化する中国軍の演習に対し、「**演習から戦争への転換**」判断と**対応行動**の迅速化が必要
- 対台湾作戦と共に**東シナ海**における作戦を主管する**東部戦区**の軍・海警・海上民兵の連携等が逐次深化
 - ⇒ **海上民兵と海警の連携**による尖閣等における行動への的確な対応が必要
- 中国軍の**新装備戦力化**進展により、**対インフラ精密打撃**や米軍等による台湾への接近を阻止する能力が向上
 - ⇒ 日本国内重要インフラの**防空能力**及び**反撃能力**の早期整備が必要

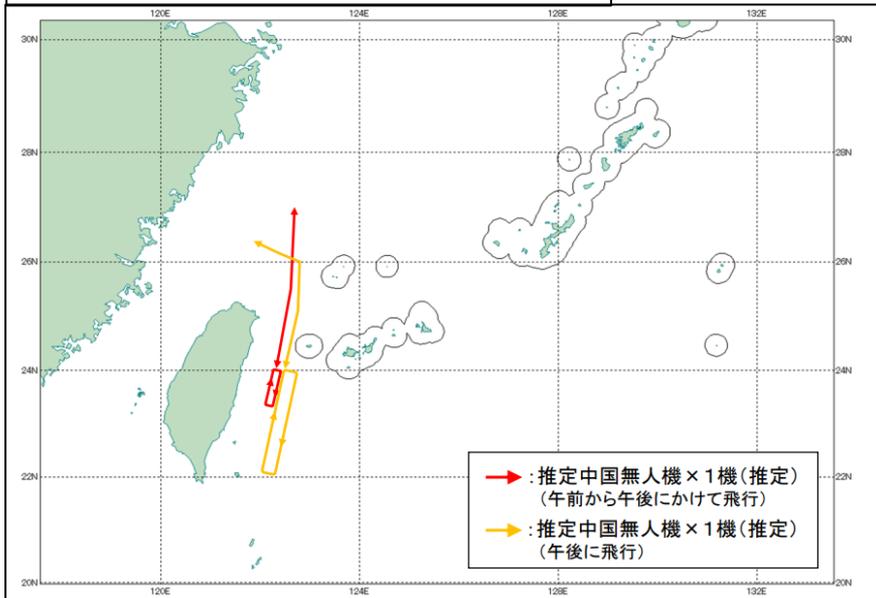
参考：中国軍無人機の状況（2025年）

日本周辺での中国軍無人機の飛行



14機中11機が台湾周辺の戦備警戒パトロール機への対応

3/17の無人機航跡（防衛省発表）



3/17 6時～3/18 6時の中国軍機航跡（台湾国防省発表）

